

## 第8回 ショートレター受賞作品一覧

### 《最優秀賞》

タイトル 「ほんとの目」

おかん、目に見えなくても、そこに確かにあるってわかるものってたくさんあるな。愛とか、優しさとか、温もりとか。そういうものは、全部おかんに教わったわ。目の見えないおかんやけど、ココロの視力はばっちしやな。



## 《優秀賞》

タイトル 「ばば様へ」



見事な手だね 土にもまれ 水にさらされ 百年間動き  
続けて 指は太く 爪は短く 深いしわと 浮き出たシミ  
そのたくましき手の姿に 言葉もなく見惚れてしまう  
家族を支えきった 世界一美しい ばば様の手

## 《優秀賞》

タイトル 「孫へ」



4歳の君が、初めて文字を書いてくれたとき、胸が熱く  
なりました。じわっと湧いてくる涙の中で、君を抱きしめ、  
ありがとう、を連発しました。君は耳の聞こえない私に、  
懸命に書いて話をしてくれたのですから。

## 《佳 作》

タイトル 「妻 へ」



「男は家事などするな」父の言葉通り全て君任せ。  
定年を迎えまだ働いている君のために家事を引き受けました。  
そして知りました。家事は生きるため一番大切な仕事だと。  
あなたに負けぬ主夫になれるように頑張ります。

## 《佳 作》

タイトル 「祖 母 へ」



歩くのもゆっくり。食べるのもゆっくり。  
しゃべるのもゆっくり。  
ばあちゃんの時間は、ゆっくりと流れているんですね。  
これからもゆっくりと長生きしてください。

## 《佳 作》

タイトル 「弟 へ」

お前も覚えているだろ。朝鮮人部落のこと。親父は部落の人と行き来した。俺たち兄妹はそれだけでいじめられ、仲間外れにされた。だから部落へ行って遊んだ。異文化を知ることができた。親父の無言の教えだったな。

## 《佳 作》

タイトル 「おじいちゃんへ」



お爺ちゃん、御免よ。五十過ぎて初めて知ったよ。私が産まれて間もない頃、顔を見たさに急いで帰る途中事故で亡くなった事。産まれるずっと前に死んだと思っていたよ。逢っていたんだね。「おじいちゃん。」

## 《佳 作》

タイトル 「祖 母 へ」

「私の宝物は、天国に持っていけないな…。だって、私の宝物はあなただから。」おばあちゃんが私に言ってくれたあの言葉。あの言葉が、私の宝物です。

## 《審査員特別賞》

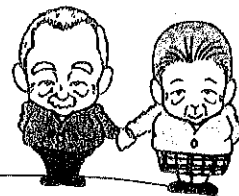
タイトル 「娘 へ」



「♪どんな色が好き？」と2歳の娘にたずねたら、  
「お母さんの色が好き♪」と歌ってくれた。  
私は何色をしてるのだろう…

## 《審査員特別賞》

タイトル 「妻 に」



誰よりも、正直に生きたい。人間の心について、自分の存在について、誰よりも正直に語りたい。あなたは貧しくても、それでいいと励ましてくれる。一緒に生きられる。骨を曲げて、今日も手を握り合って眠ろう。

## 《人 賞》

タイトル 孫（夢眞）へ「孫（夢眞）のおでこ」

子が授かり、その子から孫が授かり「ありがとう」親のおでこが、子のおでこに紡ぎ、子のおでこは、孫（夢眞）のおでこに紡いでいる。孫（夢眞）は育てるものではなくて、育つもの。愛しくみつめているよ。

## 《人 賞》

タイトル 「無 題」



毎日、不自由な足で杖をついて一生懸命通勤している君の姿を見ていると、こんなにくたびれたオヤジの私でも今日もがんばろうと思うよ。いつもありがとう。名も知らぬ美しいお嬢さん、君が私の心の杖になっているよ。

## 《人 賞》

タイトル 「スーパーマーケットのレジ係のおばさん」

「遅い、早くやれ」お客に文句を言われながら、頭を下げ下げ必死で働くレジ係のおばさん。あなたを応援する家族のために、文句などにめげず頑張れ。私も必死で働くあなたの姿を、応援する一人です。フレーフレー。

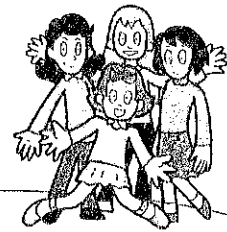
## 《入 賞》

タイトル 「息 子 へ」

「人に愛される人」になってほしいというより「人を愛する人」になってほしいです。  
生まれてきてくれて、ありがとう。母は君が大好きです。

## 《入 賞》

タイトル 「大切な友達へ」



大切な友達。いつも仲良くしてくれてありがとう。  
けんかをしたりもするけど、いつもそばにいてくれる。  
大切な友達。泣いたときはいっしょに泣いてくれる。  
笑ったときはいっしょに笑ってくれる。大切な友達。

## 《入 賞》

タイトル 「無 題」

何もかも上手くいかなかった時それでも君は傍にいた。  
説教するでもなく、頑張りというでもなく。ただただ笑って  
いてくれた。「支える」とはこの事が。言葉でなく、行動で  
それを教えてくれた。君と会えて良かった。

## 《入賞》

タイトル 「父さんへ」



いいんだよ、父さん。  
「トイレに行けなくなった…」なんて、悲しまなくても。  
そんなふうに関りに気を使った愛想を振りまくなよ。  
頑固者でいてくれよ。その頑固さが父さんが生きてきた証  
なんだから。

## 《入賞》

タイトル 「あの時の君へ」

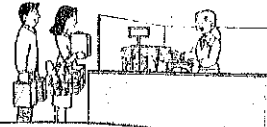


ドラえもんを見に行った小五の夏。上映開始になっても後  
方の声がうるさかった。「うるさいな」と振り返って「はっ」  
とした。小三くらいの君が白い杖のお母さんに説明していた  
のだ。事情がそれぞれあると学んだ。



## 《入賞》

タイトル 「レジで働く外国人留学生」



言葉も習慣も何もかも違う日本。  
とまどい、へまし、叱られて。レジの手つきも覚束ず。  
アリガトウゴザイマスもたどたどしい。だけどわかったよ。  
本気で本音で言ってくれたって。  
笑顔だけは嘘をつかないからね。

## 《入賞》

タイトル 「電車で会ったおじいさんへ」



満員電車におばあさんが乗ってきた。優先席の若者達は目を反らした。入り口から離れた私の座席までの案内を躊躇した。その一瞬の間に動いた隣のおじいさん。  
おばあさんの手を引くその姿に、自分が恥ずかしくなった。

## 《人 選》

タイトル 「娘 へ」

パパが知的障害者の施設職員だっということが恥ずかしかったの？「あんな人たちと一緒に歩いているんだもの」というあなたの言葉を、ママと一緒にきちんと考えてくれてありがとう。自分の差別に気付く勇気、嬉しかった。

## 《人 選》

タイトル 「同僚の看護師さんへ」



重症アトピーの方が、点滴の順番を待っていた。他の患者さん達が、気味悪そうにその方の顔を見る。貴女は素早く包帯を巻いてあげ、「はい、コスプレです」と言い、和やかな雰囲気にしてくれた。病気に差別はない。

## 《人 選》

タイトル 「保育士をしている恋人へ」

いつも手を繋いでデートしているけれど、このザラザラした手が哺乳瓶の消毒のためだと知った時、僕は貴方のことを一層好きになりました。この手は幼い子の生を支える大事な手なんだね。この手に僕も癒されています。

## 《入 選》

タイトル 「席を譲ってくれた女子高生」

電車の席が、学生で占められている中、君は恥ずかしそうに立ち上がり席を譲ってくれた。恥ずかしがることはない。君の行いは学びの道の本分であり、若者の鑑です。胸を張ってほしい。君の優しさに感謝。ありがとう。

## 《入 選》

タイトル 「今は亡き父へ」

子供の頃、父のゴツゴツした手が嫌이었다。後を継いで包丁を作り十年。僕の手を娘は優しく撫でて、好きと言ってくれる。今は亡き父に心から謝罪したい。受け継いだ技術があるからこそ、僕は家族を守っていける。

## 《入 選》

タイトル 「父 へ」

「学歴がなかったから、出世できなかったよ」が親父の口癖。でも定年まで勤め上げた立派な職歴があるじゃないか。そして、家族思いの優しい「父歴」。みんなの誇りです。心からありがとう。

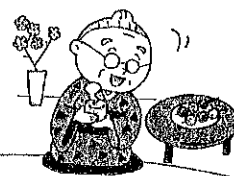
## 《入 選》

タイトル 「亡き祖母へ」

「大変ですね」。二級障害者の叔父を見て、大抵の人はそう言った。でも貴方は「そうでもない」と笑ってた。何で？と聞いたら「愛する者がいて幸せだ」って……。目から鱗の価値観を、教えてくれた貴方に感謝！

## 《入 選》

タイトル 「お母さんへ」



帰省するたびに背中が丸まり、小さくなっていくお母さん。頭も少し認知症で、ひ孫といい勝負。でも山で育ち、山で鍛えた足腰はピカ一。同じ話を自慢気に何度もするけど、そんな時のあなたの笑顔が大好きです。

## 《入 選》

タイトル 「友 へ」

一つ、寂しいときはそばにいる。一つ、辛いことは分かち合う。一つ、一緒に泣いて、一緒に笑う。…あの日あんたが私を慰めて作ってくれた「友達三箇条」、今も私の支えだよ。会えなくなったけれど、ずっと。

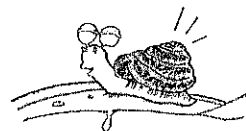
## 《入 選》

タイトル 「長男のお嫁さんへ」

息子ばかりの我が家に花のようなあなたが加わり三年。私達は心から喜んでいきます。回りの人々への心遣い、質素に暮らそうとする心構え頭が下がります。少しずつ少しずつ本当の親子になっていきましょうね。母

## 《入 選》

タイトル 「未来を担う子供達へ」



「家をなくしたホームレスのカタツムリがいるよ！」とナメクジを指差して叫ぶ子を見た時正直驚いた。幼い子が口にするような言葉なのかと。家がなくても守られるべき人権はあるはず。笑顔でいられる未来を皆で願おう。

## 《入 選》

タイトル 「無 題」

生死を彷徨った。入院中、下の世話は母がした。辛かった。罵詈雑言を浴びせた事もある。入院を忘れかけた頃、ふと母が漏らした。「戻ってくれてよかった」。貴女の子で良かったと思う。今度は僕が貴女を守りたい。

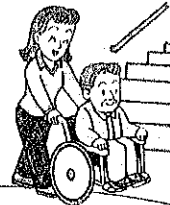
## 《入 選》

タイトル 「大切な家族へ」

「お前を産みたくなかった」と言われて育った私に「生まれてくれてありがとう」「貴女がお嫁さんでよかった」凍った私の心を、血も国籍も異なる新しい「家族」が包み込んでくれた。ありがとう。私、生まれてよかった。

## 《入 選》

タイトル 「母 へ」



まだ小学生だった僕を待たせて、自分の荷物は地べたに置いて、車椅子の人が階段を昇るのを手伝っていた母さん。  
『困っている人は助けましょう。』と学校で習った時には、とっくに心で理解していた。ありがとね。

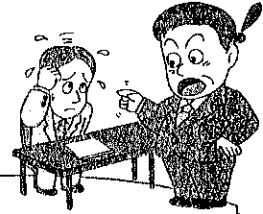
## 《入 選》

タイトル 「難病と闘う友人へ」

「20歳までは生きられない」と、お医者様から告知されたあなたも今年で30歳。“おまけの人生”だなんてとんでもない！それは、弱音を吐かず一生懸命生きているあなたへ、神様からの“ご褒美の人生”なんだよ。

## 《入 選》

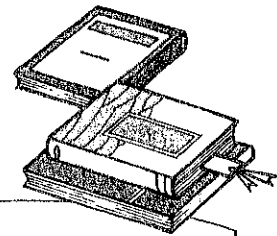
タイトル 「弟 へ」



上司に「男の独身は社会的信用がない」って叱られたあなた。気にしなくても大丈夫。他人に思いやりがあり、まじめにコツコツ努力するあなたを、私は小さいころから知っているから。あなたの人生はあなたのものよ。

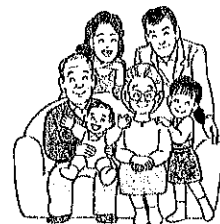
## 《入 選》

タイトル 「お父さんへ」



私が東京へ上京する日の朝、あんなに反対してたのに手作りの一人暮らしガイド本をプレゼントしてくれてありがとう。最期のページの「寂しくなったらいつでもウチに帰ってくればいい」という言葉、最高に嬉しかった。

## 《入 選》



タイトル 「九十三歳 認知症と闘うおばあちゃんへ」

ついさっき、を忘れても、時間をすべて忘れても、大切な家族を忘れても、己が誰かを忘れても、どうかもう苦しまないで。あなたは変わらぬ。あなたは私のおばあちゃん。一緒に生きる毎日、私は幸せです。

## 《入 選》



タイトル 「社会人はじめての寮生活をおくった時の先輩」

人が苦手だった十九の頃。思い切っていった「そんなことあるげん」方言だった。その時、先輩が「あんた面白いね」と温かい笑顔をくれた。その時から心のブレーキが緩んで、人と話すのが楽しくなった。先輩有難う。